



令和 6 年度 定時総会と表彰式・文化講演会

公益社団法人米沢有為会は、令和 6 年 6 月 22 日（土）午後 2 時より、昨年度に引き続き米沢市の伝国の杜大会議室で第 11（通算 137）回定時総会を開催し、表彰式を行いました。今年度は残念ながら教育文化功労賞と産業功労賞の該当者がいませんでしたので、4 個人と 2 団体に特別賞が上杉邦憲名誉会長と平山英三会長より授与されました。その後、上杉名誉会長より「宇宙とともに 60 年～そして未来へ～」と題する講演が行われました。

☆スポーツ活動（走幅跳）優秀賞：殿岡稔太郎（とのおかりんたろう）さん（米沢中央高等学校 3 年）

☆スポーツ活動（ライフル射撃）優秀賞：高橋杏奈（たかはしあんな）さん（南陽高等学校 3 年）

（フェンシング）奨励賞：米沢興譲館高等学校フェンシング部（1・2 年）

（ホッケー）奨励賞：川西中・米沢二中合同男子ホッケー部（3 年）

☆文化活動（作文）優秀賞：舟山留愛（ふなやまるあ）さん（小国高等学校 3 年）

☆文化活動（感想画）奨励賞：佐藤聖悟（さとうしょうご）さん（川西町立小松小学校 3 年）

（なお、学校・学年は令和 5 年度のもので。）

米沢支部長に近藤洋介氏

＜支部総会＞ これに先立ち、午後 1 時から同会場で令和 6 年度の米沢支部総会が開催され、①令和 5 年度事業報告及び決算報告、②令和 5 年度我妻榮記念館の事業報告及び決算報告、③令和 6 年度事業計画（案）及び予算（案）、④令和 6 年度我妻榮記念館事業計画（案）及び予算（案）が承認されました。この後、⑤理事の選任について提案され、臨時理事会で近藤洋介新支部長を決定、長谷川健新常務理事とともに総会で承認されました。

米沢有為会
米沢支部だより

第 45 号

令和 7 年 1 月 15 日

発行者

（公社）米沢有為会米沢支部

支部長 近藤洋介

米沢市金池 5-2-25

☎ 0238-22-5111

伝統を踏まえ

新たな米沢市の学校教育を創造する



米沢市教育委員会

教育長

佐藤

哲

この 4 月より、米沢市教育委員会教育長を務めております佐藤哲です。私は、東部小学校を皮切りに市内の小学校に勤務し、米沢市教育委員会勤務や教頭として酒田市での単身赴任を経験するなどして、興譲小学校長を最後に、昨年度末退職しました。どうぞよろしくお願いいたします。

本市は今、何 10 年に一度という、学校再編の真只中にあります。高等学校では、今年度、米沢工業高校と米沢商業高校がそれぞれ閉校し、来年度「米沢鶴城高等学校」として新たなスタートを切ります。

中学校では、今年度、第五中学校が閉校し、第一中学校と統合します。また、来年度は、第二・第三中学校が閉校し、新たに「南成中学校」が、同様に第四・第六中学校が閉校し、「北成中学校」が、令和 8 年度にそれぞれ開校します。その後、令和 10 年度には第一・第七中学校が閉校し、令和 11 年度、「東成中学校」が開校します。最終的に市内の中学校は「成」のつく 3 校となります。

小学校では、令和 8 年度に、広幡・六郷・塩井小学校が閉校し、令和 9 年度、（仮称）統合小学校が開校します。子ども達が夢と希望を持ち、開校の日を迎えられるよう、学校や地域の皆様と共に準備を進めているところです。このように、本市の教育環境が大きく変化することからの数年間は、米沢の新たな学校教育を創造する時期であると言えます。

また、社会全体を見ても、情報化やグローバル化の急激な進展に、世界情勢の不安定さも加わり、まさに、予測困難な時代に突入していると言えます。本市では、こうした時代を、仲間と共に力強く生きていく子どもを育てるために、一人一台の端末を活用し、個別最適な学びを進めるとともに、仲間と知恵を出し合い、協力して課題を解決する協働的な学びを進めています。また、インターネットを使った学習だけでなく、実際に体験することや、地域の方など様々な人々と直接関わる教育活動を重視しています。体験を通して、自ら課題を見つけ追究する意欲や姿勢、豊かな感性やお互いを思いやる心などを育てていきたいと考えています。

私たち米沢市民にとってなじみ深い「おしよしな」をリスベクト、「がってしない」をレジリエンスと、今の時代に合わせて捉え、米沢の歴史や文化、風土を土台に、新たな学校教育を推進していきたいと思っています。会員の皆様、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

まちの話題

長井市制施行七十周年

記念式典

令和6年10月14日（月）、長井市は市制施行70周年を迎え、長井市民文化会館で記念式典が行われました。式辞で内谷重治市長は「この記念すべき節目の年を市民の皆様と共に迎えられたことは大変喜ばしく、多くの諸先輩方が築き上げてこられた本市の歴史とたゆまぬご尽力に対し、心より敬意を表します」と述べました。式典には姉妹都市の代表を含む来賓や市民約500人が出席し、記念の年を盛大に祝いました。

市民表彰

市民表彰では、市政功労者3名、



長井市制70周年記念式典

特別功労者2名、特別名誉市民3名、市民榮譽賞3名、感謝状・個人10名、7団体、日本一認定証4名と多くの皆さんが表彰されました。

姉妹都市締結

続いて、姉妹都市盟約などが締結されました。これまで長井市は、昭和59年（1984年）ドイツのバート・ゼッキンゲン市と姉妹都市、平成4年（1992年）中国の双鴨山市と友好都市盟約を結んでいましたが、この日は両市と友好の誓いを締結しました。また、平成28年（2016年）タンザニア連合共和国のホスタタウンになつていましたが、この日は、タンザニア連合共和国のドドマ市と姉妹都市盟約を締結しました。そして、立教大学スポーツウエルネス学部と健康づくりなどに向けた連携協定も締結しました。

歴史と発展

長井市は、昭和の町村合併により、昭和29年（1954年）11月15日、当時の長井町、長井村、西根村、平野村、伊佐沢村、豊田村の1町5カ村が合併して誕生しました。当時の人口は約37000人ほどでした。現在は24468人です。

その後、戦後の復興期から高度成長期にかけて、市庁舎の完成、国道287号の新長井橋開通、フ

ラワー長井線（山形鉄道）開業など様々な施設やインフラが整備されました。

また、平成から令和の時代にかけても、長井ダムの完成や長井南バイパス「しらかわ大橋」の開通、道の駅「川のみなと長井」オープン、公立置賜長井病院グランドオープン、長井市役所新庁舎開庁、長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」グランドオープンなどのインフラも整備され、新たなまちづくりが進められています。

産業と観光

長井市は戦後電気機器をはじめとした製造業が盛んで、「ものづくりのまち」として知られています。

また、自然環境に恵まれ、最上川と置賜白川の合流により水が豊かな土地で、稲作をはじめ野菜、果樹、畜産などの農業も盛んです。令和4年（2022年）米沢有為会より産業功労者として表彰させていただいた有限会社山形工房様は、競技用けん玉生産「日本一」に認定されており、ギネス世界記録も樹立されています。

花のまち長井市では四季を通じて様々な祭りや行事が繰り広げられています。ながい黒獅子まつり、あやめまつり、ながい水まつり、最上川花火大会、長井マラソンなどが開催され、多くの観光客が訪

れて賑わっています。
目指すまちの将来像

長井市は総合計画の中で、市が目指すまちの将来像を「みんながしあわせに暮らせる長井」ずっと笑顔あふれるまち」としています。



長井市役所

新しく会員になられた方々

（個人・法人賛助会員）

氏 名	
佐々木 りこ	廣谷 久美子
舟山 知美	田中 凡子
佐藤 美英子	佐藤 公治
長岡 靖之	田中 明子
原田 利信	瀬野 友太郎
平田 忠宏	佐藤 敏孝
吉田 直史	(株) ササキ

リレー随想 ②④

嗚呼、素晴らしき
東京興譲館での日々

東北警備保障(株)
漆山 裕
うるし やま ゆか

多くの友達が行くからという理由で、関東の私立文系大学に進学した私は、自由な独り暮らしの学生生活を夢見て、遊ぶ気満々で上京しました。しかし、そこで私を待っていたのは同じ入寮1年生との相部屋、二日に1回の寮風呂、先輩方との人間関係や口に合わない食事など、憧れのイメージには程遠い環境でした。

さて、そんな環境でスタートした東京興譲館寮での生活、私はどう過ごしたか。結果的には大変楽しく充実した時間を送ることができました。新しい環境にはすぐに順応し、どうしたら楽しめるのかを工夫し、先輩や同僚や後輩といった関係を築き、いろいろなことに興味を持ってそこに行ってみると、バイトや遊びや学業に時間が足りなくなるほど日々忙しく過ごしました。その時に培われた能力は51歳になった今でも役に立っています。

今から30年前のその当時は携帯電話がなく、電話当番があったものでした(館内放送での呼び出し)。エアコンがない部屋での東京の夏夜の過ごし方は先輩に学び、先輩との酒の席では議論

が盛り上がりすぎてケンカになったこともあったとか、アルハラギリギリのコンパの際は警察のご厄介になったとかならないとか。臨泊の先生方を夜な夜な麻雀にお誘いしたり、飲みに連れ行ってもらったり。不自由なことはたくさんありましたが、どれもこれも独り暮らしでは体験できなかったであろうことばかり。若いうちに東京で経験したたくさんさんの時間は、今となっては大切な宝物です。

そして寮を出た後も、寮および米沢有為会とのご縁はつながり、同じ釜の飯を食ったご縁は、今も私の心の拠り所です。嗚呼、素晴らしき東京興譲館の日々よ、永遠なれ。そして恩送りには次の世代へ。お世話になった皆様様の益々のご健康とご健勝を祈念しております。

(想い出の写真は、卒業してからのも米沢小野川温泉でのお泊り懇親会の様子)



想い出の写真

～ 活躍する会員紹介 ～ ②⑥

一般社団法人米沢観光コンベンション協会
会 長

小 嶋 彌左衛門

さん



杉まつり』『上杉雪灯籠まつり』『なせば成る秋まつり』などの四季のお祭りの企画運営を行う。2か所の観光案内所の運営、観光客の受入れ態勢の普及向上を図る。物産の振興を図るなどを中心に観光関連の分野で多岐にわたって活動しています。

Q 1. 初めに、米沢観光コンベンション協会の歴史や組織についてご紹介ください。

A 1. 米沢観光協会は昭和23年に設立され、初代会長に米沢市助役の小関高次氏が就任されました。2代、3代は高橋広吉市長、吉池慶太郎市長が会長でした。4代目で民間から初めて当時の米沢商工会議所会頭の鈴木栄一氏が就任され、その後民間から会長が出ています。現在私が11代目の会長です。発足時の事業案は、観光地の選定・開発、観光施設の整備をはじめとする米沢を観光地として立ち上げていこうとの目的で設立されました。第6代の浜田耕一会長のもとで昭和60年に社団法人化され組織の強化が図られました。現在は一般社団法人米沢観光コンベンション協会となり、上杉神社境内に事務所と観光案内所を設け、道の駅米沢内に総合観光案内所を運営しています。合わせて四季のまつり事務局を運営し、第二種国内旅行業を取得して旅行の手配もしています。

Q 2. 米沢観光コンベンション協会の主な事業についてお聞かせください。

A 2. 国内外の観光客への宣伝勧誘活動、コンベンションの誘致を図る。四季のまつり委員会を通して『上

Q 3. 最近特に観光活性化のために力を入れておられることについてお聞かせ下さい。

A 3. 国策として進められている海外からのインバウンドの観光客の勧誘に8年前から尽力しています。現在は親日で近距離である台湾に向けて勧誘活動をしています。台湾最大の温泉地である北投温泉と連携してPR活動をし、大手旅行会社をはじめ多くの旅行会社に営業活動をしています。その成果と思われますが、台湾からの観光客は近年大幅に増加しています。

Q 4. 今後の抱負をお聞かせください。

A 4. 米沢は上杉文化を中心とする侍の町です。観光地としての素材が豊富な街です。歴史と伝統があり、米沢牛やおいしい果物や多くの伝統野菜、コメなど食の素材がたくさんあり、城下町としての食文化があります。個性豊かな八つの温泉や、雪が降るといふ、台湾から見ると非常に魅力的なところなんです。台湾だけでなく、広く国内外から多くの観光客に来ていただき喜んで頂けるように、受け皿の整備充実を図っていきたくと考えています。

ありがとうございました。今後ますますのご活躍をご期待申し上げます。

米沢有為会を 支援します



株式会社 ナウエル
代表取締役
酒井 登博



ナウエル本社外観

「らしさ」を見つめ、人とつながり、人をつなげる。2021年、弊社はミッションを刷新し、激動の時代にあつて、米沢、ひいては置賜地方が「心ときめく場所」となることを目指して日々事業に取り組んでいます。前身の北陽食品工業株式会社から数え、創業77年を迎える弊社は、現在冠婚葬祭業を中心に事業を展開していますが、創業は醤油の製造販売から始まりました。創業以来、「変化し続けることが会社の財産である」という杜風のもと、時代や環境の変化に応じて幾度も業態を変化させてきました。昨今の未曾有の災害では、またも新たな挑戦を強いられました。私たちはその苦難を共に乗り越えてきました。

こうした試練の中で私たちが得たのは、現在の事業基盤は諸先輩方のたゆまぬ努力の賜物であり、また地域の皆様に支えられて今に至っている、という深い感謝の念です。これ

までのご恩に報いるため、私たちはさらに努力を重ね、地域社会に貢献してまいります。

先の「第一回よねざわ戦国花火大会」の準備を通じて、米沢や置賜の歴史、そしてその地に受け継がれる「米沢の心意気」を改めて感じることができました。上杉景勝公、直江兼続公、さらに上杉鷹山公が示した郷土への思いやリーダーシップに学び、私たちもこの地に誇りを持ち、いかなる時も一致団結できるよう尽力していきます。

また、米沢有為会様には、地域に流れるこの志を長年守り続け、後世の私たちに継承してくださいとお願いすることにより敬意を表します。今後とも歴史や思い、人々を次世代へと繋げていかれるご活躍を心からご祈念申し上げます。



公益財団法人宮坂考古館
館長
宮坂 直樹

本館は、故宮坂善助前館長が80余年の生涯をかけて蒐集した約7百余

点の貴重な資料を収蔵している。その大部分は米沢・置賜地方の考古歴史、民俗資料であるが、大別すると56領の甲冑をはじめ、火縄銃、刀、槍、屏風など米沢藩関係の重要文化財が数多く含まれている。

前館長は若くから郷土史の研究に従い、地域の隅々にまで足を運んで考古資料の調査・収集を行ったが、戦後は特に旧藩関係の資料を散逸するのを惜しみ、その収集・保存に力を尽くした。収集した資料を広く人々に公開し地域文化の向上を期するために、昭和37年に私設博物館、宮坂考古館を開設、昭和48年には財団法人宮坂考古館と組織を改め、更に昭和52年博物館法に基づいた博物館として登録され、平成4年には新館もオープンしている。平成25年4月に公益財団法人宮坂考古館と改める。

本館の常設展示として、山形県指定有形文化財甲冑5領を中心に展示、この他に前田慶次所用と伝えられて

いる甲冑、この甲冑はいかにも奇行をもつて知られた豪傑慶次好みの派手な造りの甲冑である。埋蔵文化財展示と



して、縄文・弥生時代の石斧、石鏃、石匙菅玉、曲玉、各種土器、古墳の埋蔵品などが展示されている。

隣接している蔵造の第2展示場がある。ここには槍と火縄銃を展示している。槍は上杉家十二槍と呼ばれる上杉家重代の槍を展示している。火縄銃は米沢市指定文化財火縄銃8挺を中心に上杉の雷筒とおそれられた、30匁筒、20匁筒、10匁筒を展示している。米沢有為会は、置賜地方の産業・文化振興のための事業や活動をしています。当館においても米沢藩古式砲術保存会に助成し、火縄銃及び発砲演武の伝承を行っており、有為会と共に地域の文化振興に貢献したいと考えております。



編集後記

☆昨年末から大雪に見舞われた置賜。寒い中、除雪に汗を流す毎日ですが、2月の雪灯籠まつりや花火打ち上げ、地区の雪まつりなどで賑わいが予想されています。今年も置賜地区の皆さんが創意工夫を凝らして、克雪・利雪・親雪に取り組まれ、この厳しい冬を乗り越えられることを願っています。(手)